

歩兵才六十四旅団

長少將 有川 圭一

独立歩兵才千五大隊

独立歩兵才千一大隊

独立歩兵才千三十大隊

独立機南銃才百六隊主力

独立速射砲才三十二中隊

歩兵才六十四旅団司令部

直轄部隊

独立砲兵才三十二大隊(独立機南銃才百六隊才一中隊ニ属ス)

才辛二師団工兵隊

才六十二師団通信隊

才六十二師団輜重隊

才六十二師団野戰病院

才六十二師団病馬隊

才二作戦準備期

才一則 自昭和十九年八月 才次配備変更迄
至昭和十九年十月

師団ハ上陸ト共ニ才九才三西師団ノ各防衛地ト一部ヲ継承シ沖繩本島忠
正ノ防衛及作戰準備ヲ担ヒテ 當時ニ於テ師団兵力配置附圖才一ノ如シ

一築城

陣地ハ島嶼防備ノ原則ニ照ラシ且ツ今次戦後ノ教訓ヲ加味シ予州部隊分
散據拠式ノ堅固ナル洞窟陣地ヲ築深ニ配置シ特ニ側防及支援ノ關係ヲ
妨合セシメテ 齟齬ヲカラシメ火力ヲ以テ水際ニ殲滅スル如ク構成セリ
尚ホ古作用ハ砲兵ヲ有セザル兵部隊備有ノ重火器ヲ以テ行戦車戰
斗ニ一部使用スルノ他 砲兵ヲ之ヲ死角消滅及歩兵戦斗ニ直接參與
セシムルト共ニ道時重要方面ニ其ノ火力ヲ集中シ得ル如ク考慮セリ
前項ノ主目ニ基キ前師団ノ既備ニ改革ヲ加ヘ全力ヲ集中シ予陣地ノ構
築ニ精進セリ
然レニ輸送力不足ハ陣地所要ノ資材ヲ適切ニ補給スルコト困難ト成

況ニ在リテ陣地掘削ニ使用スル兵カノ一部ヲ以テ之等資材ノ運搬ニ
先テ先ル為作業ノ進捗ニ影響スル所アリ
十月ニ至リ陣地施設ハ概テ重要火具ノ構設ヲ終リ豫備陣地及陣
内交通連絡設備ニ移ストセシ矢先才九師団ノ前進ニ伴
ヒ全面的ニ配備ヲ変更セラレシ為師団ハ先ノ兵才六十四旅団ヲ知念
半島方面ニ轉移シ陣地編成ニ改変ヲ加ヘタリ又
陣地構築ニ使用スルキ爆薬ヲ以テ戰車地雷ノ代用タル急造爆
雷ノ調整ニ先テ先ル為陣地作業ノ進捗ニ影響スル所大ナリキ

二教育

當時ノ狀況ヨリ作戦準備作業ニ重要ヲ置キ秩序ニ計画的教育
ノ実施ハ才ニ義的トシ主トシテ場合ヲ設ケテ行フ戦斗技能ノ教育ヲ
重要ニ各陣地據点ニ於ル實際戦斗要領ノ練習ヲ重視セリ
又幹部ノ戦斗職能向上ヲ重視シ屢々中隊長大隊長ノ集合教
育ヲ実施シ各隊所要ノ人員ヲ集合セシテ挺身攻撃及射撃車
攻撃要領ヲ教育スルト其之ガ普及練熟ニ意ヲ用ヒタリ
十月入隊現地初年兵ハ築城作業ノ關係上各隊毎ニ集合教育ヲ
実施シ精神教育及各個分隊戦斗ニ重要ヲ指向セリ
三月入隊現地初年兵ニ對シテハ專ラ各個戦斗教練ニ重要ヲ指向
セシモ入隊後日淺クテ序章ノ結果ヲ要ケルコト困難ナリシヲ思ハム

三兵器資材

兵器
各個人裝備ハ概テ九九式小銃ヲ以テ充足シ他ニ大陸戰線ヨリ携

行セシ四式小銃若干ヲ備トシテ保有セリ

輕機重機、迫撃砲等ハ編成定數ノ外大陸戰線ニ於テ戰級品若

干ヲ保有シテリ

射撃車火器トシテハ步兵大隊ニ射撃中隊ヲ有シタルミニシテ

主体無シテ急造爆雷ニオケリ

彈藥ハ定數兵器ニ對シテハ概テ十分ナリシモ大陸ヲ携行セシ兵器

戰車地雷ノ支給量ハ僅クシテ所望ヲ充テ得サルヲ以テ陣地

構築用爆藥ヲ極度ニ節減シテ之ヲ急造爆藥ノ調整ニ

充テ以テ戰車地雷ニ代用スル等工夫セリ

資材

築城資材ハ杭木ノ大部ヲ除クノ他概テ那霸埠頭ニ於テ交付ヲ受

ケタリ而シテセキ止ノ交付量ハ所望量ヲ充足スルニ足ラサルミナラス

取扱祖漏ニ基固シ紙袋破壊セシモノ多ク且ソ當時ノ天候ハ之ガ保存

ヲ困難トシテ使用後ニ於テ凝固力著シク低下セルモノアリテ陣地構築

ニ影響スル所歎カラス

杭木ノ大部ハ防衛地内及國頭地ニ於テ伐採調達スルト共ニ一部那霸

埠頭ニ於テ交付ヲ受ケタリ

然レドモ當時ニ於テ兵團保有輸送力ハ之等交付物資ノミナラス國頭地

ノ杭木ヲ輸送スルキ能力ナリ陣地構築ニ影響スル所大ニモアリタリ

四經理

經理ハ作戰指導ノ計畫ニ基調ヲ置キ其ノ要ホクヲ充足セリ工夫シ道

路作戦ニ影響ナキ方面ニ於テハ極度ニ節減ヲ要求セリ

被服ハ補給品ヲ以テ戰用ニ充テ常用ハ極度著シク不良トシテ劣

メテ之ニ加修ヲ行ヒ使用セシメタル為一般ニ程度極ク不良ノ如ク觀シ

タルモ戰用ハ殆ド新品ヲ以テ充足スルコトヲ得タリ

糧秣ハ補給品ヲ以テ先ツ戰中ノ所要ヲ充テ爲主食ノ節減ヲ行

ヒ之ヲ補足ノ爲ニ現地ニ於テ甘藷ヲ他ヲ調達補充セシメタリ

而シテ各隊戰中用糧秣トシテ主食四ヶ月分ヲ格納保有スル如ク要

本レ概不其ノ域ニ違ヤリ
消耗品諸品ハ概不補給品ヲ以テ充足セシムルヲ得タリ
現地自活

主食ノ減量補充並將來ニ於テ糧食補給ノ準備ヲ顧慮シ現地自
活ノ処理ヲ痛感スルト其ニ軍ノ意亦此処ニ在リ師団ハ各部隊防
衛地内ニ於テ土地所有者ト直接契約ニヨリ主トシテ甘藷及野菜
類ノ栽培ヲ多施セシメ一部水田ノ耕作ヲ許シ着々実績ノ向上ヲ見
タリ又副食方面ニ一部ノ養牛養豚養雞ヲ行シメ之亦ソレ緒
ニ就キ兵員ノ給食ハ主食ノ減量ヲ補ヒテ十分ト云フヲ得タリ
薪炭ハ因頭地ニ於テ調達スルルルル永続的計畫ヲ立案シ薪炭
採集班ヲ編成シ因頭郡金武及奥地区ニ派遣シ之ヲ生産ニ努
シメタル結果自給ノ確信ヲ有シタルモ輸送力ノ不足ハ北都因頭
地区ノ生産品ヲ消費地ニ取得スル事困難ニテ産地ノ帯貨ハ日
ト共ニ増加シ兵団自力ニテハ打南ノ方途ナキニ至リ

兵器糧秣其ノ他資材ノ集積配置

兵器糧秣其ノ他資材ノ集積配置ハ空爆及艦砲ノ損害ヲ回避
ニ防圧シ且ツ彈雨ノ雨ニ於テハ線補給ノ容易ナルルル微存セシ分
配置ヲ採リ而シテ之ヲ集積ハ總テ洞窟内集積格納トシ特
ニ防護ニ意ヲ用ヒテ之ヲ為兵器彈藥糧秣等ハ師団保有量
ノ大部ヲ隸下各部隊ノ人員用度ニ比例シテ交付シ師団ニ於テハ
其ノ一部即チ最小限度ノ數量ヲ控置セリ
隸下各部隊ハ之等ノ集積諸品格納ニ多クノ洞窟ヲ壙南ニ要
ニ迫ラシ敷斗陣地ノ築設ニ影響者ニテ所甚カラサルモノアリ
師団保有兵器彈藥糧食其ノ他ノ集積格納ノ為附屬才ニ
ノ也兵器格納庫及野戰倉庫ヲ設置シ集積諸品ハ總テ
洞窟格納トシ防護意取防止等萬全ヲ期セリ

六、輸送

師団固有ノ輸送力ハ編成收自動車(中隊)三(西)ヲ有スルニシテ
之ヲ付シ燃料ハ一月車平均三言立ヲ支給セラルルニ過キハ徒ラ走
行新給ハ燃料ノ支給量ヨリテ限定セラレ完全自動車ヲ有シテ
カラ之ヲ有用ニ使用スルト能ハズ師団物資輸送ニ影響スル所
甚大ナリキ

而シテ師団上陸時ニ至ル各部隊隊属荷物ハ步兵大隊ニテ概
ネ自動車五。車分ヲ有シ加ラヒ上陸後那覇埠頭ニ於テ支領
セシ築城資材及兵器履珠等ヲ合スレバ尠大ナル数量トナリ
個有輸送力ヲ以テシテハ到底処理困難ナル現況ニテ配慮
ニ依リ一部輕便鉄道ノ利用ヲ許サレタルモ實際ノ利用輸送力
ハ僅クニシテ那覇集滞荷物ノ輸送ハ成行キトモ委スルノ外
狀能ハナリ一方荷馬車ノ微備ヨリ之ヲ打南セントモ先駐
兵団ヨリ之等ノ大部ヲ備足セラレテ早急調達不能ノ狀能

テリ種々交渉ノ結果兵站自動車一分隊(五車輛)臨時既属ヲ定ケタ
ル他既属部隊カク隊車才ニモ隊隊ノ荷物自動車一部ヲ築城材
料輸送ニ充テスル等自方手段ヲ講シタルモ進捗意ノ如クナラズ
十月十日敵ノ空襲ニ逼リ築城材料衣履等相宜数量ノ滞貨
ヲ那覇市ニ於テ島有ニ留セシメタリ

十月以降軍兵ニ本島内地方荷馬車ヲ微備シ統制配當ヲ莫クセ
ラレタルモ初期ニ於テ輸送力ノ不足ハ各部隊ニ深刻ニ影響ヲ
及シタル結果各部隊共成ハキ多クノ輸送力ヲ專有セントシテ
各個ニ強制微備ヲ實施スル等成果伴ハズ殊ニ厚道某部隊
ノ如キハ尤大ニ有依輸送力ヲ保有スルモノアリ種々交渉ヲ試ムル
モ融通性ナリテ却テ他隊既備車馬ヲ強引ニ横取リタルカ如
キ事ニ由ルモノアル等上陸直後ニ於テ師団輸送狀態ハ依然
大ニ隘路ヲ形成シテ作戰準備ニ波及スル所甚大ナルモノアリ
リ一方那覇埠頭ノ滞貨整理ハ後免船団ノ揚塔ニ至大ノ困

係ヲ有シ等因ニ附スルコト能ハルル状況ナリ。従テ國取地ニ於テ
採集スル杭木及薪炭等ノ使用地区ヘノ輸送ハ今斷念スル止
ナキ状態ニ至リ。

七、通信

通信施設ハ激烈ノ砲爆ノ間猶克ク其ノ連絡ヲ確保スベク各種通信機
ヲ配合配置シ遺憾ナキヲ期シタリ
甲、有線通信ハ地形ヲ利用シ低架空半永久的施設ヲ以テ有線無
線共ニ通信所ハ總テ洞窟設備トセリ又視号通信網ハ重要ナ
ニ配置シテ地形ヲ利用シテ砲爆毒ニ耐スル掩護施設ヲ行ヒ有線無
通信ト併用スル也。計画処理ヤリ鳩通信ハ激烈ナル砲爆下訓練
未熟ノモノナリテハ絶対的ノ信頼ヲ有スルモノニアラザリ以テ一部ノ支
隊先遣部隊等離隔シテモノ及舟候等ニ使用スル也。準備訓
練ヲ更進ス。

本期ニ於テハ有線通信ハ概テ幹線ノ架空ヲ終リ通信所ノ一部
ヲ洞窟施設トシテ完成セシモ尚大部ノ通信所ハ作業時ニテ見

八、衛生

敵軍ニ至テハ無線通信所ハ凡テ工事中ニシテ見或迄ハ尚相宜ノ日昨
ヲ要スル状態ニテリ視号通信ニ関シテハ地形ヲ踏査シテ計画ヲ完成
シタルモ未ダ掩護施設ノ着手ニ至ラザル状態ニ在リ

沖繩上陸以來ノ衛生状態ハ概テ良好ナリモ師団長員ノ大部ハ化
支方面ニ於テ頗ル不衛生的環境ニ駐留シ且ツ十九年初春以來ノ京
漢作戦ノ後ヲ承ケテ一部マラヤ患者ヲ有シタルノ外配属ラ受
ケタル独先才ニモ三大隊ニ腸チカス患者続出シ之ガ防疫ニ苦心セリ
沖繩地方ニ於テ癩患相当多數アリ感染防止ニ就テハ各部隊ニ
於テ之ガ予防法ノ徹底ヲ期シ地方患者ハ軍ニ於テ集積收容
セシメ又影響者ハ所ナカリキ
最時患者ノ收容施設濶クニ患者收容ノ難易ヲ顧慮シテ各
地区ニ洞窟病院ヲ構築セリ

本邦國ニ於テ作工兵中ニ爆薬傷患者若干名ヲ生じ元々洞窟
 作業ノ修繕ト爆薬カリーノ上ノ取扱ニ熟スルニ從ヒ所次其跡
 ヲ断テリ
 傷病患者ノ收容施設左ノ如シ師団野戰病院ヲシテ北谷村
 ニ開設セシム
 九月西原村小那覇ニ患者齋養所ヲ開設ス

九馬車

師団所屬馬匹ハ僅クニシテ大陸ヨリ駒進ニ方リ選定吟味セラレシ結果
 馬車一般ニ南シテハ特ニ元進スバキ事ナシ
 馬種ハ現地調達ヲ主トセシ爲大陸ヨリ携行セシ馬匹ハ慣熟セサル甘
 藪ヲ主食トシテ生草ノ代用トシテ甘藪及甘藪ノ葉ヲ食セシメメ
 タル結果一時栄養不振ハザリシモ之ガ調理ノ改善ト慣馴ニ依リ
 漸次採食狀況良好トナリ栄養ヲ回復スルニ至リ

第六十二師團長	中務 木下 善夫	陸軍少佐	陸軍少佐
步兵第六十三旅團長	少將 中島 徳太郎	直轄部隊	
独立歩兵第十一大隊		独立歩兵第二十二大隊	
〃 第十一大隊		〃 第二十三大隊	
〃 第十四大隊		戰車第二十七聯隊	
獨立機肉銃第四大隊		第六十二師團 工兵隊	
陸軍連射砲第二十三隊		通信隊	
步兵第六十四旅團長	少將 有川 圭一	輜重隊	
獨立歩兵第十五大隊		野戰病院	
〃 第二十一大隊		病馬廠	
〃 第三十三大隊		野戰作中第十四中隊	
野戰重砲第七聯隊		偵察隊	
獨立機肉銃第十四大隊		獨立歩兵	